

令和元年度 新磯地区まちづくりを考える懇談会結果報告

- 1 日 時 令和元年11月15日(金)午後7時2分から午後8時34分まで
- 2 場 所 新磯公民館大会議室
- 3 市側出席者 本村市長、長谷川南区長、石井企画財政局理事、河崎保険高齢部長、
荻野まちづくり計画部長、阿部南区副区長
樋口市民局長、高梨市民局次長
- 4 出席委員等 25人
- 5 傍聴者 6人
- 6 懇談会の要旨

テ - マ	新磯地区が望む新しい生活交通手段について
概要	<p>新磯地区の公共交通機関のうち、路線バスは地区住民が望む運行ルートが整っておらず、既設路線は運行頻度が非常に少ない時間帯がある状況である。鉄道はJR相模線相武台下駅があるものの、バリアフリー化設備が設置されていないなど、交通環境が十分に整っているとは言えず、新磯地区の交通利便性は非常に低い状況となっている。</p> <p>昨年4～5月に、新磯地区地域ケア会議地域づくり部会が、新磯地区自治会加入全世帯を対象に実施した「外出に関するアンケート調査」の結果では、地区別の差異があるものの、高齢者を中心に若い世代からも、生活交通手段の確保・充実を希望する方が多数を占めた。</p> <p>また、令和元年度市長所信表明において、「地域の実情に応じたバスの利用の支援について、検討を進めてまいります。バス路線のない地域につきましては、コミュニティバスや乗合タクシーなどにより移動手段の確保を図ってまいります。」と述べられており、生活交通手段の確保・充実が相模原市・地域の共通課題であると認識している。</p> <p>新磯地区にはコミュニティバス制度上の交通不便地区が存在しているものの、運行基準が厳しい現行制度では、地区で導入することは非常に困難である。</p> <p>これらのことから、今後、新磯地区において生活交通手段の確保・充実について、既設路線の安定的な運行を継続するとともに、利便性及び運行効率の向上を図るため路線、ダイヤ等の見直し、コミュニティバスや乗合タクシー運行基準の大胆な見直し(基準緩和)、新磯地区が望む新しい生活交通手段に対する市の補助金等の支援について、市の考えを伺いながら、市と地域が協働して行うことができる取組について懇談したい。</p> <p>また、高齢者は運転免許証の自主返納などにより移動の制約が生じることから、介護保険事業所等の空き車両を利活用するなど、高齢者の移動手段を確保するための交通政策についても懇談したい。</p> <p>このほかに、相武台下駅のバリアフリー対策については、行政も事業者への要望だけでなく、財政的な支援など、地域の交通弱者への支援をいただきたいということと、相模台、大野南地区と比べ、新磯地区で日常生活を送る上で、どのような街として考えているのか、そしてこれからどのようなまちづくりを進めるのか、合わせて市の考えをお聞きしたい。</p>

<p>地区の取組 状況等</p>	<p>昨年度とりまとめた「次期総合計画・都市計画マスタープラン新磯地区まちづくり会議報告書」の中で取り上げた山積する地域課題の中でも特に解決に向けた取組が必要な事項として、「コミュニティバス等の運行について」を最重要テーマとし、今年度のまちづくり会議において、グループ討議等による議論・検討を進めてきた。</p> <p>現行制度では新磯地区にコミュニティバスや乗合タクシーを直ぐに導入することは難しい状況ようであるが、市において運行基準の見直し等の検討を進める旨も伺っており、その進捗状況等を注視しながら、並行してこれらの現行制度によらない、新磯地区独自の新たな生活交通手段の可能性についても、他地区の取組等の情報収集や協議を重ねながら検討を進めていきたい。</p>
<p>市の取組 状況等</p>	<p>本市では、平成24年3月に策定した「市バス交通基本計画」に基づいて、バス交通における各種施策の推進に取り組んでいる。</p> <p>市内バス路線については、需要の動向や利用実態に応じてバス事業者が設定しているものであるが、市民からの意見や要望については、機会を捉えてバス事業者に伝えている。</p> <p>コミュニティバスや乗合タクシーの導入については、地域の皆さんと交通事業者、行政との協働により運行するものとしており、公費の負担も含めて持続可能な公共交通とするため運行継続条件等を定めている。</p> <p>現在、本市の交通政策においては、交通不便地区へのコミュニティバスの導入や津久井地域への乗合タクシーの導入を行うほか、バス停留所の上屋やベンチの設置、ノンステップバスの導入補助など、バス待ち環境や利便性の向上に努めている。</p> <p>バス路線や運行ダイヤ等の見直しについては、社会環境の変化や利用状況等を踏まえつつ、バス事業者に対して更なる利便性の向上が図られるよう働きかけていく。</p> <p>導入条件や運行継続条件については、高齢化の進展など、社会的背景を踏まえながら、持続可能な運行形態となるよう、学識経験者や運行事業者、公募委員などで構成する「地域公共交通会議」等の意見を伺いながら、検討してまいりたい。</p> <p>現在取り組んでいる「市バス交通基本計画」の改定作業の中で、高齢化の進行や運転免許返納者の増加といった、昨今の社会的背景の変化を踏まえつつ、既存の公共交通を維持するとともに、新たな生活交通確保策についても検討を進めてまいりたい。</p> <p>相武台下駅については、市内で唯一バリアフリー化がされていない駅である。現在JR東日本と勉強会を設置して、駅の構造上すぐにエレベーターの設置ができず、どうやって設置をするか検討しているところであり、もう少し時間がかかってしまうと考えられる。</p> <p style="text-align: right;">（都市建設局）</p> <p>令和元年10月1日の現在の65歳以上の高齢化率については、市内平均が25.5%で新磯地区では26.4%と市内平均よりも高い状況となっている。</p> <p>本市では、高齢化による免許返納などにより、買物や病院等への外出が困難な方が多くなっており、地域の実情を踏まえた地域住民の支え合いによる移動支援</p>

市の取組 状況等	<p>の取組を促進するため、市の取組として本年度から新たに「移動支援推進モデル事業」を、城山地区と麻溝地区をモデル地区として、地域の皆様とともに、現在取組を進めているところである。</p> <p>本事業は、地域の移動支援の有識者として「認定NPO法人かながわ福祉移動サービスネットワーク」が伴走役として、モデル地区の皆様とともに、勉強会の開催、助言や相談支援などを通じて、地域の実情に合った互助による移動支援の取組方策について検討しているところである。</p> <p>城山地区においては、地域の社会福祉法人の協力により空き車輜と、職員の提供を受け、高齢者の方をサロンへ送迎する取組の検討が進められ、11月20日の試行運転を目指しているところである。</p> <p>麻溝地区においては、地域住民向けの移動支援に関するアンケート調査の実施や地域の社会福祉法人のネットワークづくりに向けた検討を進めているところである。</p> <p>モデル地区による取組は、令和3年3月末までとなっており、本年度は、中間取りまとめ報告会、次年度はモデル事業報告会の開催を予定している。</p> <p>本モデル事業を通じて得られた成果については、他の地域の皆様が地域の移動支援に取り組みされる際の参考となるよう事例集の作成など情報発信に努めていきたい。</p> <p>モデル事業の取組ではないが、既に光が丘地区では昨年10月から試行運転を経て本年4月から社会福祉法人の車両を活用し、スーパー等の移動支援の取組も行われているところである。市としても2年間のモデル事業を通じて、どういった支援がこのモデル事業を通じてできるか、また市内の社会福祉法人へのアプローチの仕方等を含めて検証、検討していきたいと考えている。</p> <p>公共交通を補完する多様な形の移動支援の取組の拡充が必要となっており、それぞれの地域の状況に応じて、地域の住民の皆様や関係機関が協力することによる「地域と住民の皆様による送迎」の創出が求められている。</p> <p style="text-align: right;">（健康福祉局）</p> <p>新磯地区は都市計画図を見ると一目で分かるが、主に第一種低層住居専用地域に指定されており、住宅地に適した地区となっている。建ぺい率や容積率でいうと、一戸建てに適しており、ゆったりと住める地区となっている。現在の都市計画マスタープランでも、現在作成をしている次の20年を見越した新しい都市計画マスタープランでも位置づけについては変わっていない。加えて自然豊かな環境や県道やJR相模線があり、歩いてゆったり過ごせる街というのが今もこれからも変わらない地区であると市は考えている。</p> <p style="text-align: right;">（都市建設局）</p> <p>南区全体では、古くから相模川沿いや境川沿いに人が住んでいて、代々住まわれてきた地区である。一方で戦後の高度経済成長に合わせて都心や横浜のベッドタウンとして住宅地が栄え、そこに集まった人たちで、商業地を作ってきたという二つの側面があり、南区全体では、今もいろいろなバランスの中で、皆様の暮らしがあると捉えている。そういったなかで新磯地区は、自然は豊かで、住んでいる皆さんの地域の支え合いも他の地域より多いという印象を持っている。交通の不便さと自然の豊かさをどう折り合いをつけて、皆さんに引き続き住</p>
-------------	---

	<p>んでいただけるか簡単に答えは出ないと考えている。今後も皆さんと一緒に考えながら、まちづくりを行っていききたい。</p> <p style="text-align: right;">（南区役所）</p> <p>コミュニティバスは、交通不便地区の移動制約者の皆さんの移動手段を確保するために、導入するのが本来の目的であり、神奈川中央交通などの民間の公共交通網の行き届かないところにコミュニティバスを運行することになっている。皆さんにお聞きしたいのが、4月にコミュニティバスについて、6月に乗合タクシーについての勉強会が開かれたと伺っている。コミュニティバスについて、行政側で導入してくださいと言われるが、地域からコミュニティバスが必要という声があればなかなか運用は難しい部分がある。そういった意味で4月、6月に勉強会を行って、どういう思いかをお聞きしたい。</p> <p style="text-align: right;">（市長）</p>
--	--

懇談内容	
地区の発言	<p>コミュニティバスについては、交通不便地区が対象となり、新磯の中でも勝坂の一部と下磯部地区の一部が指定されている。新磯の中央は交通不便地区ではなく、新磯でコミュニティバスを運行するには、走る区間が決まってしまう。交通不便地区という設定があるため、新磯では運行が厳しくなっている。</p> <p>現行制度では、運行が厳しいため、10年前に策定した交通不便地区またはコミュニティバスの制度そのものの見直しをお願いしたい。</p>
市の発言	<p>市バス基本計画を策定してから間もなく10年経つので、これから見直しを始めていくところである。市は今ビックデータといって、3年間かけて皆様の交通実態の調査を実施している。この調査が勝坂と下磯部の一部の交通不便地区にお住まいの方たちにどのような公共交通網を望んでいるかの調査もしている。</p> <p style="text-align: right;">（市長）</p> <p>ビックデータについては、母体にパーソントリップ調査というものがある。10年に1度調査をしている。特定の日を指定し、この日はどこからこういった目的で何を使って移動したかを回答していただくものである。ビックデータの1つである携帯電話の基地局データ等と併せて解析することでより細かい動きが分かる。現在解析をしており、来年度に解析やとりまとめができる予定である。実態としてどのような動きをしているかを見ながらバス事業者を含め様々な検討をしていきたい。</p> <p style="text-align: right;">（都市建設局）</p> <p>今の検討を踏まえ運行継続条件の緩和等を検討する。実際に運行継続条件によって大野北地区では土日に運行していないこと、大野南地区、上鶴間地区でコミュニティバスについて盛り上げようとしたが、できなかったという声がある。今後ビックデータを踏まえながら研究していきたい。</p> <p>選挙の公約で敬老パスを導入するといった。国会議員時代には、横浜、東京、川崎で実施していたのでできると考えていた。南区では、伊勢丹の撤退と公共交通網の整備が圧倒的に多かったため、政策に挙げたが、市長になり、財政の厳しさに直面し、試算すると導入に年間約12億円もの金額がかかる。これを実施するのであれば、交通不便地区にコミュニティバスや乗合タクシー等について形を</p>

	<p>変えて実施した方が有効ではないかと考えている。地域の皆様の運行継続条件の緩和を求めている声は本日頂戴したので検討してまいりたい。全市的な問題なのですぐにできるわけではないが、各区の意見を集約しながら方向性をまとめていきたいと考えている。</p> <p>駅のバリアフリー化は、1日3,000人という乗降客数の目安があるが、相武台下駅について非常に多くの不便の声が上がっている。複線化の話も併せて、年内にJR東日本に行き、話しをしてみる。また、国土交通省にも声を上げていきたい。相模原市が直轄でエレベーターを所有している箇所があり、例えば相模大野駅や橋本駅など、市の予算で設置した箇所もあるため、地域の皆様の声をしっかりと伝えていきたい。</p> <p>旧相模原市内で高齢化率が高いのは、相武台地区と光が丘地区の2箇所であり、この2地区は小中学校の再編をどうするかについても議論が上がっている。</p> <p>光が丘地区では、スーパーがたくさんあるが、それでも買い物難民がいる。その中で、社会福祉法人の空き車両を使って、日中に買い物にいけない方へのサポートを行っている。場合によっては空き時間を利用して、買い物や相武台前駅、原当麻、北里大学病院に行けるような時間帯もあるかもしれない。また、城山地区と麻溝地区をモデル地区として高齢者移動支援推進モデル事業に取り組んでいるので、運用結果を皆様に情報提供していきたい。</p> <p>新磯地区については、ゆったりとした空気の中で生活感がとても感じられる地域であり、地域の皆様が文化や伝統、芸術を含めて、とても大切にしていると考えている。相模の大風は、他の自治体との会議等で挨拶をするときに話題に出している。素晴らしい地区であり、南区を代表する地区であると考えている。</p> <p style="text-align: right;">(市長)</p>
<p>地区の発言</p>	<p>交通不便地区の解消のため勝坂地域に見合ったコミュニティバス等の地域巡回の交通網の整備について市の考えをお聞きしたい。</p> <p>勝坂は約850世帯が暮らす地域で、そのうち夫婦のみの世帯が約180世帯である。交通不便地区として指定されており、坂道が多く、一部では生活道路の道幅が狭い箇所もあり、高齢者から子育て世代を中心に交通網の整備を望む声が多い地域である。高齢化が進み、今後は老老介護や高齢独居等の問題が懸念される。高齢化による免許返納や、一人では外出できない、買い物がつらい、公民館や自治会の諸行事の参加が不自由になることが増えると考えられる。新磯地区地域ケア会議のアンケートにより、勝坂地区で外出できない理由の中に交通手段がない、行きたいところまでが遠い、坂道が多い、高齢に伴う足腰の痛みがあげられている。移動手段については他の新磯地区と比べて、勝坂は電車バスの利用が低くなっている。理由としては、徒歩でバス停に向かうにも坂道があり、距離も遠く、高齢者の足では20分以上かかる。現状では自動車で移動するのが40%くらいで、徒歩が約24%くらいである。アンケートの結果からも公共交通の不便さが勝坂は浮き彫りになっており、高齢化が進むとさらに大きな問題になってくる。新磯地区としても対策として地区社会福祉協議会が中心となって、新磯地区に居住する方に対して、買い物支援や、庭の草むしりなどをサポートするボランティア事業を立ち上げて活動している。また勝坂地区では、観光イベントや国登録有形文化財もあるので、勝坂の魅力を広めていく意味でも公共交通網の整備</p>

	<p>は必要であると考えている。</p> <p>勝坂に見合った公共交通網の整備は、高齢者の自治会活動やグループ活動の積極的な参加、引きこもりの予防や介護予防効果、病院や買い物にも行きやすくなると考える。高齢者や子育て世代が安心して安全にらせるまちづくりの形成のため、新磯地区全体で麻溝地区、相武台地区、相模台地区等の隣接地区と併せたコミュニティバスの運用についてぜひ早急に考えていただきたい。</p> <p>先ほどの答えの中で「これから検討してまいりたい」ということですが、それが何年先を見越しての検討なのかを併せてお聞きしたい。目標の設定が何年先なのかも併せてお聞きしたい。</p>
市の発言	<p>勝坂の状況はよく理解している。「市バス交通基本計画」は令和3年度末を目標に取り組んでいるが、実際にはそこまで待てないことも承知している。コミュニティバスについていろいろお話を伺ったが、少量で多方向の交通で、病院やスーパーマーケットが巡回バスを出したりするののも一つの案である。タクシー会社と協定を結び、料金をいくらか固定するのも可能である。皆様はコミュニティバスで考えているが、内容に応じていろいろなことを組み合わせるのも可能である。これからはより広い視野で皆様と検討していければと考える。</p> <p style="text-align: right;">（都市建設局）</p>
地区の発言	<p>交通不便地区はコンパスで距離を測って設定しているようであるが、上り坂などの地形が全く考慮されていないので、その点は見直しをしていただきたい。</p> <p>介護保険事業所等の空き車両を使っていると聞いたが、どこからどこまでが使えるのか。サロンだけではなく、巡回ルートを実施できないか。あらゆる方向を満足させるのではなく、使えそうなルートを介護保険事業所の車両で検討して欲しい。第二種免許の関係もあり、法律的には難しいと思うが、それらを併せてどうすれば規制をクリアできるか行政側と協働で実施していきたい。</p>
市の発言	<p>交通不便地区についてはご指摘のとおりである。コンパスで引いているが、これからは実情に合わせて現場を見ながら考えていきたい。</p> <p style="text-align: right;">（都市建設局）</p> <p>介護保険事業所の車両については、特に決まりはなく、地域の需要や法人の所有する車両がどこまでマッチングできるかというところである。例えば買い物なのか、病院なのか、多方向なのかは地域同士で話し合っ決めていくものであり、法律の話もあつたが、道路運送法等に抵触しない範囲で事業を進めるようにしている。法律に抵触しないように取組を進めるため、行政や有識者に知見をいただきながら、麻溝や城山のモデル地区で実施をしていきたい。</p> <p style="text-align: right;">（健康福祉局）</p>
市長の感想等	<p>貴重なご意見をいただきありがとうございました。</p> <p>新磯地区は上磯部、下磯部、新戸、勝坂等の地域の需要も違うということが分かった。特に勝坂は坂が多いということで、生活の不便さをお聞きした。今後その見直しについても検討していきたい。今回のまちづくり懇談会は、すぐに結論が出るというものではなく、これからの新磯地区をどう考えていくかが最大の課題であると考えている。以前は市長が懇談会に参加していなかったが、今回市長に就任して22地区全部を周り、皆さんと対話をさせていただいている。今日の課題は全市が絡む問題であるため、いつまでにどうするという安易な話しではな</p>

市長の感想等	<p>い、その点をご理解いただきたい。</p> <p>特に本市では、長寿命化対策に入らなければならない、約1,300の公共施設の改修等をいかにして10年または20年先に延ばせるかを検討しなければならない。現状のままでは、新規事業や事業の拡充を実施しなくても令和2年に60億円、令和9年には134億円の赤字が見込まれる。</p> <p>限られた財源の中で、選択と集中で知恵を絞り、みんなでよりよい相模原を次の世代の子供達、孫の世代に繋げていくのが私達の責任である。</p> <p>これからも皆様と対話をし、行政も背筋を伸ばして、新磯のまちづくりを一緒に進めていきたい。</p> <p style="text-align: right;">（市長）</p>
--------	--